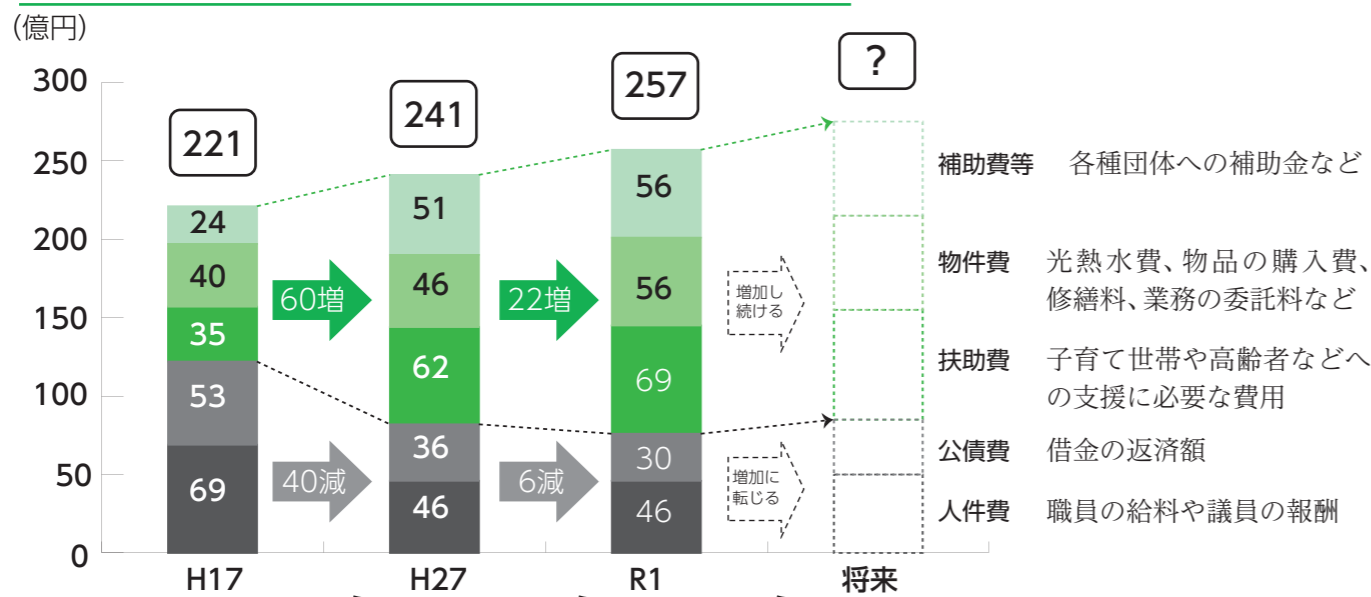


### 主な歳出(支出)の分析とこれから(将来)の見通し

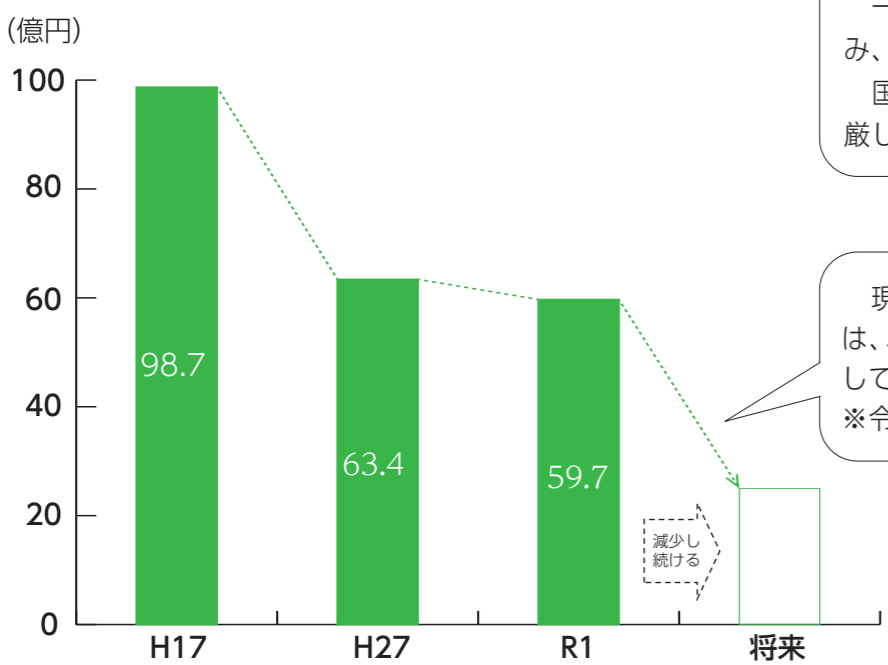


**合併後の10年間**  
新たな施策の積み重ねにより補助費、物件費、補助費などが増加したが、人件費と公債費は大きく減少したため、お金のやりくりはできていた。

**H28年度～**  
補助費、物件費、補助費などは増加し続け、人件費と公債費の減少がわずかになり、お金のやりくりが難しくなってきた。

**これから(将来)の見込み**  
・公共施設の改修や建て替えの費用が増加  
・子育て支援や高齢者の支援など、補助費や補助費などが増加  
・社会・経済情勢の変化により委託料や施設の維持管理費用が増加

### 貯金(基金)残高のこれから(将来)の見通し



これからも支出は増え続ける見込み…  
一方で収入は、人口減少・少子高齢化が進み、市税収入の増加は期待できない。  
国から市へ交付されるお金も、国の財政が厳しいなか今後も増える見込みは少ない。

現状の行政サービスを維持していくためには、収支不足(赤字)を補うため貯金を取り崩していくことになる。  
※令和2年度は6億円貯金が減りました。

このままだと、近いうちに貯金がなくなってしまうのではないかな？

次回は、2022年3月号で、今回の分析などを踏まえた、市の今後の取組の方針などをお知らせします。

# 持続可能な財政基盤の 確立に向けて

## ～シリーズ③ これまでと今、そして、これから～

問(市)経営管理課 経営管理係

**増加する支出と減少する貯金**  
シリーズ①・②(広報みき8・10月号)では、旧三木市と旧吉川町が合併した平成17年度以降の支出、収入、貯金残高および借金残高の4つの項目の推移についてお知らせしてきました。



「市の財政」は難しいものではありません。金額に大きな違いはありませんが、各家庭でのお金のやりくりと似ています。  
自分たちのまちのことを一緒にみていきましょう。

### これまでの主な支出状況(増加・減少の要因)

合併後の10年間(H17～H27年度)	H28年度～今
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員数の大幅な削減→人件費が減少</li> <li>・1990年代に整備した市役所本庁舎や三木山総合公園など大型施設の整備費用の返済の一部が済んだ → 公債費が減少</li> <li>・時代の変化に対応するサービスの充実 → 補助費、物件費、補助費などが増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の再任用制度の導入や大幅な削減でゆがみが生じた年代の職員補充など → 人件費は増加傾向</li> <li>・合併後の借金(合併特例債)の返済が本格化 → 公債費の減少幅はわずかに</li> <li>・少子・高齢化対策の拡充 → 補助費、物件費、補助費などはさらに増加</li> </ul>

今回は、税金などの基本的な収入が平成17年度から190億円前後でほぼ横ばいの中で、増加する支出と減少する貯金の「これまでと今」の分析のほか、現時点での「今後の見通し」についてお知らせします。

**持続可能な市政運営に向けた取組**  
10年、20年先も行政サービスを維持できるようにさらなる業務改善を行うため、10月25日にコニカミノルタ(株)と連携協定を結びました。  
民間企業の業務改善のノウハウや知恵を借りながらさらなる事務効率化に公民連携で取り組み、市の財政を健全化していきます。

調印式の様子